

(再開 午前10時40分)

議長（勝山 正）

休憩前に引き続き会議を開きます。

1番、関達夫議員。

(「はい、議長。1番。」の声あり)

(1番 関 達夫 議員 登壇)

1. 区の支援策を厚くしてほしい

1番 関 達夫 議員

それでは、発言を許されましたので、行政事務一般質問をさせていただきます。

その前に、6年度の決算についてでありますけれども、村長の行政報告に拝見したわけでありまして、一言ちょっと感想を申し上げたいと思います。

6年度の一般会計は、実質収支額1億5,889万5千円となったということであり・・・

議長（勝山 正）

関議員、ちょっと今、質問の内容ちょっと違っているのですけれども。

1番 関 達夫 議員

そうですか。

議長（勝山 正）

1番の「区の支援策」からお願いします。

1番 関 達夫 議員

ちょっと行政報告について触れたいなと思いましたが。

議長（勝山 正）

それは、一般質問の通告にないので。

1番 関 達夫 議員

はい、わかりました。失礼しました。

それでは、通告に基づき質問させていただきます。

「区への支援策を厚くしてほしい」という内容であります。

3月の議会での一般質問時、各区への行政交付金の見直し、増額の検討をしたらいかかとお伺いしました。会議録を確認しても、なぜ315万円なのか根拠をお聞きできなかったもので、再度伺いたいと思います。

西町、私の区であります、どうか確認したところ、令和6年度は11万7,130円。さかのぼって10年来ほぼ同額で交付を受けております。これは村の予算315万円を地区に按分し交付しているから、さきの答弁では、平成23年度から金額は同じとのことあります。

高齢化、人口減、戸数減、働き盛りの方々も仕事に精いっぱい、地区の行事、催事などは苦勞と感じておられます。区の役員もなり手が減少し、区長職も複数回行う状況にあります。人手不足で地区の運営も大変厳しい状況であります。行政から区長に対し何かと用事、依頼事をされますが、負担は重く、軽くはなりません。

分館活動においても、一区2万円ほどの補助金があり、活用させていただいているようですが、この評価はいろいろだろうと思います。

1つ目の質問であります、なぜ金額が315万円なのか。交付金の性質とその根拠を伺いたいと思います。また、持続可能な村づくりに協力いただくために交付額を増やせないかどうか、お伺いします。

議長（勝山 正）

湯本総務課長。

総務課長（湯本寿男）

それでは、お答えいたします。

「なぜ、金額が315万円なのか。また、その性質と根拠、そして交付額を増やせないか」というご質問でございます。

まず、各区への行政交付金についてのご質問ですが、なぜ315万円なのかという明確な基準については確認できておりません。

その性質については、村からの各区へ配布物の依頼や、各種の取りまとめの依頼をするためのものと理解しております。

つぎに、「持続可能な村づくりに協力するための交付額は増やせないか」についてですが、行政交付金の増額については、各区にお支払いする他の事業や補助金の関係もあり、現在のところまだ具体的になってはおりませんが、区長さんを始め、役員さんの出席や依頼などの負担軽減につきましては、随時検討しながら進めておりますので、ご理解いただければと思います。

また、「人口減少や高齢化により、各区における役員の選出が難しくなっていることや、今までと同じような区の業務ができにくくなっている、負担が大きい」といったお話は、複数の区からもいただいていることは事実であります。

ただ、交付金を増やしたからといって解決できるものだけではないと思いますので、交付金以外でも、もう少しご意見や状況を伺い、意見をいただきながら検討していきたいと考えています。

議長（勝山 正）

関議員。

1番 関 達夫 議員

全てお金のみというわけではございませんけれども、一旦交付いただくとその部分が何のためのものかという紐がついてないわけでありまして、区の中で、それぞれ区の運営費等々に使わせていただいているのかなというところもあるかと思えます。そんなことで、持続可能な村づくりに、ぜひとも交付金を増やしていただきたいと思いますが。

2番目に移ります。

そんな中で、任意加入である交通災害共済を、昨年来、全村民加入としてきております。村が160万円を負担されているんですけども、個人掛け金分を各区に支払っているのも同様ではないかというふうなふうに言い訳されるのかどうか。いかがでしょうか。

議長（勝山 正）

湯本総務課長。

総務課長（湯本寿男）

それでは、「交通災害共済の掛け金」についてのご質問でございます。

交通災害共済への加入につきましては、令和6年度から全額公費負担で全村民加入としており、今年度につきましても162万2千円を予算化し、全村民が加入しております。

交通災害共済は、村民の皆様が万一交通事故に遭った際に、事故に遭われた方の救済を目的として、加入者と市町村が一体となり、助け合う見舞金制度であり、区ではなく、加入者が支払っていたものであり、各区への交付金とは性質が異なるものと考えております。交付金分を交通災害共済の掛け金に充てているという認識ではありません。

あくまでも、村民の福祉向上を目的として公費負担としているところですが、以前は区の役員さんに掛け金の回収をお願いしていましたが、回収の手間が負担軽減になったということになります、その分が区への交付金に含まれたという解釈ではございませんので、よろしくお願いいたします。

議長（勝山 正）

関議員。

1番 関 達夫 議員

このことについては何度もお聞きしたりしておりますけれども、村民に対しての福祉であるというようなことを、村長よく言われます。昨年来5件ほどの事故があったり、見舞金を受けられた方がおられるようでございますので、このことと区への行政交付金の増額という同一視できるわけではございませんが、若干あまのじゃく的で申し訳なかったなと思っています。

3番目でありましてけれども、活力いっぱい集落、村づくりを目指しておりますけれども、金銭以外に地区への支援はどのようなことをされておられるか、お聞きしたいと思います。

議長（勝山 正）

湯本総務課長。

総務課長（湯本寿男）

「金銭以外の区への支援」ということでございます。

金銭以外の地区への支援としてどのようなことを行っているかということですが、地区づくり推進員として区出身の職員などを配置して、区の計画づくりの支援、また、自主防災組織づくりの支援などを行っております。

また、地域の自主的な活動などに補助金を交付する村づくり補助金事業など、活動に対する助成も行っているところです。

議長（勝山 正）

関議員。

1番 関 達夫 議員

職員、それぞれ地区へ貼り付けるみたいな形でご協力いただいていることは、重々承知しているわけでありませぬ。

活性力いっぱい集落、村づくりということで、各種の補助金等々もあるようでございます。

共同の村づくり推進事業、早稲田大学との連携とか、宝くじの助成、フラワーロードの整備、総合戦略というようなことで、昨年度はこういったところでもお金を使いながら地区づくりをやってきたというような感じで出ておりました。

その中でありますけれども、先ほどの山崎議員の質問の中にもあったわけでありましてけれども、3か村が合併して70年、当時の人口約8,000人でした。今年4月には4,000人を超えておりましたけれども、広報9月号では3,996人となっております。

振興計画での15年後の目標は3,560人としておりますけれども、予測値では3,200人となっております。10年もかからずに、目標値を超えてしまうんではないかと、大変に危惧するところでありませぬ。

出生数は、6年も7年も10人ほどの人数であります。高校を卒業すると、みんな都会へ出て行ってしまい、鮭のように故郷に戻ってはなかなか来ません。ますます人口が減少する一方で、減少するところでもあります。

故郷に戻れるようにするには、やはり仕事をする場所が必要だと私は思います。それも無い。せめて住みやすい集落となるよう各区の区費の負担を軽減することによって、帰って来やすくなるのではないかと感じたりします。一つの手段になるのではないかと思います。

区を運営する経費の多さについては、さきの一般質問でもご案内したとおりであります。それぞれ区の運営には大変共通経費的なものが多いです。

現行315万円、これを戸数で割ると約2千円ということかなと思いますけれども、4千円ほどにしないかどうか、約倍額です。そうすると、総額で600万円ほどになるわけなんですけれども、改めて金額的なことを申し上げましたけれども、いかがでしょうか。お考えあったらお願いします。

議長（勝山 正）

湯本総務課長。

総務課長（湯本寿男）

今、再質問で「区費も含めての負担の軽減」というお話をいただきました。

3月、そして今回の答弁でもありますように、直接的な区の交付金については、今のところまだ具体的にはなっておりません。

ただ、いろいろな形で区への負担軽減、まず、会議の出席、役員さんの出席の部分については、先ほど申し上げたように、随時、負担軽減を図っているところであります。また、区の活動に対しての補助金ですとか、直接住民の方の活動に対しての補助金についても、随時、充実・拡充を検討しているところであります。

今回、直接区へのお話でございますが、交付金以外のところで、例えば少し補助率を上げたりだとか、そういったものを具体的にできるかどうか、今検討をしております。まだ、具体的にはなっておりませんが、検討しているところであります。

それと、別の区でもちょっと違った意見というのもあろうかと思いますので、今後、区長会などで各区の状況なども、こちらも把握をさせていただいて、どんな支援といいますか、地区づくりに貢献できるかというのは検討していきたいと思っております。

議長（勝山 正）

関議員。

1番 関 達夫 議員

どんな事業の補助率を考えてらっしゃるか、もしわかったら教えていただけますか。特にないですか。

議長（勝山 正）

湯本総務課長。

総務課長（湯本寿男）

現状、どの事業でというところは、現時点ではお答えできないんですけれども、できるものがあるかどうか、今検討しているところでございます。

議長（勝山 正）

関議員。

1番 関 達夫 議員

いずれにしても、各地区の区長さん方にいろいろとお話を聞いていただきたいと思います。そんなことで区への負担を一つでも軽くしていただければと思います。

2. やまびこの丘ジュニアサッカー場のにぎわいを

1番 関 達夫 議員

次に移らせていただきます。

やまびこの丘にジュニアサッカー場があるわけでございますけれども、賑わいを取り戻さないかということでお聞きしたいと思います。

夏に行われているサッカーフェスがあるわけでございますが、2005年からプロサッカーチームと企業のご理解と協力で、大会は大変賑わってきたところでありまして。多いときは、250人超というほどの子供たちが来て、宿泊施設、近隣の民宿等々も大変賑わいがあったところでありまして。関係者の努力もあり芝の状態や周りの環境も素晴らしく、木島平村の自慢のできる施設でもあると思っております。

世の中の変化もあり、近年は参加者が少なく大変残念であります。今年は、2チーム100人ほどの子供たちが来てくれました。ほかにアーチェリー、ほかにサッカー大会等々もあるわけでございますけれども、駐車場の拡張、施設整備などこれからも実施されるところであります。競技場が活用されないのであれば、まさに本末転倒であると思っております。

1つ目として、今回のサッカーフェスの反省と、次年度に向けての取組で何かお考えがあったらお聞きしたいと思います。

議長（勝山 正）

本山産業課長。

産業課長（本山 等）

それでは、「サッカーフェスの今回の反省と次年度に向けての取組」についてご質問をいただきました。

はじめに、このサッカーフェスティバルにつきましては、東京都をホームタウンとするJ1リーグのクラブが主催するサッカーフェスであります。村は、これに協力する立場で会場の確保や宿泊施設のあっせん、期間中のサポートを行っております。

議員ご指摘のとおり、コロナ禍を契機に参加者が減少し、コロナ禍前の水準には回復はしておりません。今年は、選手とコーチ合わせて100人余りに参加いただき、3泊4日の日程で開催されております。

参加チームの募集は主催者が担っておりますが、参加者の拡大は、村と主催者の共通の課題として認識をしております。

主催者によると、近年の物価高騰により貸切バスの料金も高騰いたしまして、保護者負担が大きくなったことから、やむを得ず参加を断念するチームがいくつかあったとのこと。このようなことから、次年度以降は、村への交通手段を貸切バスから新幹線に切り替え、飯山駅から村までの送迎を宿泊先のマイクロバスなどで対応するなど、保護者負担の軽減策を講じるとともに、より多くのチームが参加しやすい開催日程の検討など、参加者拡大に向けた検討を主催者とともに行う予定としております。

議長（勝山 正）

関議員。

1番 関 達夫 議員

ぜひ、多くの子供たちが来て賑わいのあるサッカーフェスにさせていただきたいと思います。

東京等向こうからお呼びするには、確かに交通の便、大変良いわけではないわけであります。そういうことも原因にあるかとも思います。

ちょっと余談になりますけれども、過日、新聞の記事にも出ておりましたけれども、これ佐久地方であった話なんですけれども、メインスポンサーがありまして、U-12、U-10、県内各地から12チームが参加して、2日間の大会があったというようなという記事が出ておりました。

遠方の子供たち、なかなか来づらいわけであります。もうちょっと近隣のところ、長野県内にも20ほどJ3のチーム等々の付属のチーム等々もあるわけであります。ぜひ、そういったところへも呼びかけ等々で、近くの子供たちを呼び込んでできないかなと思うんですが、そのようなお考えはいかがでしょうか。東京のみに目を向けるのではなくて、地元といいますか、近隣の子供たち等々に向けてのサッカー大会等々でいろいろ模索していただければどうかと思いますが、いかがでしょうか。

議長（勝山 正）

本山産業課長。

産業課長（本山 等）

今、再質問で「県内のチームを招いてはどうか」というご質問であります。当然、主催者の方で県内のクラブにも声掛けをしていただいております。また、北信管内にも子供たちのチームいくつかございますので、こちらにも合わせて声掛けはさせていただいておりますので、サッカーフェスの期間が各チームの活動と合わないという部分もあったりしますので、そういった意味も含めて、開催期間の検討を図っていきたいと考えております。

議長（勝山 正）

関議員。

1番 関 達夫 議員

多くの子供たちが来てくれるように、ぜひ施設を使っていただいて賑やかしを取り戻していただきたいと思います。

2番目で、そんな中で、いざ多くの子供たちが来た場合ですけれども、受け入れる宿泊施設のキャパシティといいますか、多くの方が来ても受入れ等々は特に心配はございませんでしょうか。

議長（勝山 正）

本山産業課長。

産業課長（本山 等）

「宿泊施設」についてのご質問いただきました。

受入れ体制につきましては、観光振興局が宿泊施設を募集し、参加チームを振り分けております。1チーム当たりの人数が最大で30人程度でありますので、仮にチーム数が増えた場合でも、村内の宿泊施設で受入れ可能であると考えております。

議長（勝山 正）

関議員。

1番 関 達夫 議員

それでは、次の質問に移らせていただきます。

3番目でありませけれども、今年から学生の合宿補助制度というものをやっているわけでありませけれども、村長の行政報告でも少し触れられておりますけれども、改めて、利用状況、評判はいかがかとお聞きします。

議長（勝山 正）

本山産業課長。

産業課長（本山 等）

「合宿補助制度」についてご質問いただきました。

この制度につきましては、8月末までの利用実績が13の団体にご利用いただき、延べ宿泊者数は2,000人弱となっております。

今後も今月13日から15日に開催される木島平サマーノルディック大会に合わせて、多くの学生の宿泊が見込まれております。

また、補助制度を利用した学生からは「来年もぜひ利用したい」などの声をいただいております、合宿の実施や拡大を後押しする制度として、一定以上の評価を得られていると考えております。

議長（勝山 正）

関議員。

1番 関 達夫 議員

より一層、受入れ等々にご尽力いただきたいと思います。

3. 観光振興で元気を取り戻せるか

1番 関 達夫 議員

それでは、次の質問に移らせていただきました。

「観光振興で元気を取り戻せるか」ということでお聞きしたいと思います。

今、過去ビジョンの策定作業に入られているわけでありませけれども、150万円の当初予算かけて観光ビジョンを策定するということでもあります。助言をいただく会社も決まったようでありませし、ちょっと前に検討委員会も開かれたと伺っています。

地域の皆さんをどのように巻き込んで村の元気をどう取り戻すか、村の観光の基本的考えはどこに置いておられるのか、2点お伺いしたいと思います。

木島平のメインの観光というようなことであったわけでありませけれども、馬曲温泉、スキー場の経営は一企業に任せていますが、村の経済にどんな寄与をいただいていると思われていますか。

また、村長の意向はしっかりと反映されているか、各企業からどんな報告を受けられているか。企業別にお伺いしたいと思います。お願いします。

議長（勝山 正）

日墓村長。

村長（日墓正博）

それでは、ご質問にお答えいたします。

「馬曲温泉やスキー場の運営に、村長の意向が反映されているか」ということではありますが、始め

に、村が民営化を進めた背景ではありますが、当時、指定管理者でありました第3セクターの経営不振がありました。これ以上の財政負担を避けるため、早期の民間移行も求められていたという状況があります。そのうえで、村の意向は、観光施設を民間事業者の力を活用して、安定的に運営していただくことであります。

そこで、観光施設の目的は、次の3つと大まかに考えております。

まず第一に、効率的で安定した運営を図ること。民間の経営判断やノウハウを生かすことで、コスト管理やサービス改善を迅速に対応できるということ。

そしてまた、サービスの質の向上、利用者満足度を向上させることも目的の一つであります。民間のアイデアやマーケティング力によりまして、利用者ニーズに沿った企画が展開され、リピーターや交流人口の拡大に繋がることも期待しております。

また、第3として、村の財政負担を軽減しながら、限られた予算を効果的に活用するということも大きな目的の一つあります。

このような目的のもとに民営化を進めたものであり、現在は事業者の主体性を尊重しながら、村としては必要な連携や情報共有を図っているところであります。

その他の質問については、担当課長に答弁をさせます。

議長（勝山 正）

本山産業課長。

産業課長（本山 等）

スキー場と馬曲温泉の運営に関し、地域経済への貢献度と事業者からの報告内容についてのご質問にお答えいたします。

はじめに、「地域経済への貢献について」申し上げます。

馬曲温泉は令和6年4月にリニューアルオープンし、年間約2万7,000人のお客様にご利用をいただいております。昨年の「温泉総選挙2024」では絶景部門で全国4位、中部地方第1位を獲得し、本村の観光の玄関口として高い評価を受けております。そして、従業員8名のうち6名が村民であり、雇用の場としても貢献をしております。

スキー場につきましては、令和5年12月にリニューアルオープンし、昨シーズンは約5万7,000人にご来場をいただきました。宿泊や飲食、土産品の購入などを通じて、大きな経済効果が見込まれておりまして、基幹的観光施設として重要な役割を担っております。くわえて、冬期間の雇用確保やイベント・大会による交流人口の拡大、村の知名度向上にも寄与しています。

いずれの施設も、直接的な経済効果にとどまらず、村の魅力を発信し、村への再訪を促す大切な役割を果たしていると認識しております。

最後に、各事業者から報告をいただいている内容でございますが、施設入込み状況について報告をいただいております。

よろしく申し上げます。

1番 関 達夫 議員

村の6年度の決算のところにあつたんですけれども、馬曲温泉公園管理運営事業で1,800万円ほど、スキー場施設管理事業で900万円ほどということで、これらの支出が少なくなっただけでも、村の財政的なものは若干負担が軽くなったということで評価に値するかなと思ったりしています。ますます各企業に頑張っていただきたいなと思っているところであります。

そこで、2番目でありますけれども、ビジョン策定されるわけでありまして、観光振興局との連携は極めて重要だと思っておりますけれども、村長の描く村の観光目標は何か、お伺いしたいと思っております。

議長（勝山 正）

日碁村長。

村長（日碁正博）

観光ビジョンにつきましては、観光分野において村全体が同じ方向を向くための指針、観光に関する方向性や具体的な目標を定めた計画書になります。このビジョンの策定のため、村民検討会を組織し、8月18日に第1回目の検討会議を行ったところであります。

質問の「観光目標は何か」ということでありますが、私が描いている村の観光目標は、大きく3点になります。

第一に、「木島平ならではの魅力を磨き上げること」であります。豊かな自然環境、米を始めとする農産物、四季を通じた体験プログラムなど、本村にしかない資源を再発見し、ブランド力を高めることで、訪れる方にも選ばれた地域を目指してまいります。

第二に、「交流と滞在の拡大」であります。観光を単なる通過型の消費活動に留めるのではなく、宿泊や農業体験、地域住民との交流などを通して滞在時間を延ばし、地域経済への波及効果を高めることも目標としております。

第三として、「持続可能な観光地域づくり」であります。観光と私達の暮らしは、相互に影響し合う一体的なものであります。環境保全や地域文化の尊重を前提に、観光が地域の誇りと安全を支えるものになるよう取り組んでまいります。

以上の目標に取り組むこととして、観光を切り口として、農業など他の産業の発展や移住定住など村そのものの持続的な発展を目指してまいります。その目指すその方向性を共有しながら、観光振興局と共同して具体化して、村内事業者や住民の皆様にも主体的に関わっていただくことで、「住んでよし、訪れてよし」の観光地域づくりを進めてまいりたいと考えております。

議長（勝山 正）

関議員。

1番 関 達夫 議員

ぜひ、村長の言われる村の魅力、強み、魅力の深堀というようなことで、いい方向、いい発見ができるようにお願いしたいと思います。

4. ファームス木島平再整備について

1番 関 達夫 議員

4番目に移らせていただきます。

「ファームス木島平の再整備」ということで、お伺いしたいと思います。

6月の議会において、施設の再整備について、計画を練り直すというようにお話をされたところでありますけれども、9月の補正予算には施設推進事業費293万7千円ほどが予定されております。その中で、施設管理委託料が146万3千円、その他委託料が121万円、合計267万3千円ほどであります。

さきの整備計画の中で、6億円余の投資計画あったわけでありまして、それに対し見直し、あるいは反対の意見が多数寄せられてきたところで、前段の話になっているわけでありまして。

これまで設計料、委託料など支払いながら、コンサル等々の計画提案に沿ってやってきたところかなと思いますが、なかなかいい結果に結びつかなかったのではないかなと思います。

6月からまだ3月ほどしか経っておられないところでございますけれども、今現在の状況を村民は知りたがっていただけるんじゃないかなということで、お聞きしたいと思いました。

①として、この補正予算でどんなことをされるのか、お伺いしたいと思います。

議長（勝山 正）

湯本産業企画室長。

産業企画室長（湯本幸伸）

「この9月議会での補正予算で何をされるか」というご質問でございます。

今議会に上程させていただきました補正予算におきまして、道の駅の再整備事業に関連しまして、2つの事業を委託する予算を計上させていただいております。

まず、道の駅の再整備に係る比較検討資料の作成業務146万3千円であります。次に、アスベスト調査業務121万円でございます。

道の駅の再整備に係る比較検討資料作成業務でございますけれども、道の駅の再整備にあたり、再検討するに当たりまして、現在3案程度の素案の作成を想定しております。

1つ目は、全て現在の施設を取り壊すケース。

2つ目は、再整備計画でA棟としております老朽化が進んでいる建物を取り壊し、現在、食堂・直売所・カフェがあります再整備計画でB棟としておる建物を残すケース。

3つ目がA棟を取り壊し、B棟を残しつつ、農産物等の直売機能の充実など、必要最小限の機能を備えた小規模な施設を整備するケースでございます。

今回、それぞれの素案を比較検討するための概算事業費などの積算業務委託ということで、予算計上をさせていただいております。

また、アスベスト調査業務でございますが、現在、既存の建物を取り壊す際には、一定規模以上のものにはアスベストの調査が義務付けられております。仮にアスベストが検出された場合には、解体事業費に大きく影響を与えることが想定されます。そのため、今回、アスベスト調査を実施させていただきたいというものでございます。

いずれも、これから再整備計画を検討するための基礎となる調査積算資料のための業務になるものでございます。ご理解いただければと思います。

議長（勝山 正）

関議員。

1番 関 達夫 議員

それでは②であります。今いろいろと検討を加えている内容とお聞きしましたけれども、ファーム木島平はこれからどんな方向へ向かうのか、村長のお考えをお聞きしたいと思います。

議長（勝山 正）

日碁村長。

村長（日碁正博）

現時点、6月議会後の進捗状況についてありますが、道の駅再整備に当たりまして、さきに開催しました村民説明会や意見公募でいただいたご意見を参考に、先ほど申し上げました3案程度の素案の策定を進めております。

先ほど申し上げましたとおり、本補正予算において、素案の策定に必要な業務関連経費の計上をしており、今議会に予算をいただき次第早期に発注をする予定であります。

素案ごとの機能やかかる経費、費用対効果について試算・検討をこれから進めてまいります。

概ねのスケジュールですが、今年度末を目途として村としての方向性を示せるように進めていきます。

いと考えております。

議長（勝山 正）

関議員。

1 番 関 達夫 議員

今年度末に向けて調査・研究ということですが、このことについては、検討委員会、前にそういう委員会がございまして、そういった皆さんとまた意見交換とか話をしたりというような場を設けてやっていかれるのでしょうか。いかがでしょうか。

議長（勝山 正）

湯本産業企画室長。

産業企画室長（湯本幸伸）

「今後の素案検討にあたり検討委員会等で検討することがあるか」という質問でございます。

現在のところ、改めて検討委員会を設けて、そこで検討したものをということではなく、先ほども申し上げました、素案としての概ね3パターンについて村で様々な観点から検討しまして、そのうえで、村としてその素案の中でこの案が良いのではないかというものをお示しできればと思っております。よろしくお願いいたします。

議長（勝山 正）

以上で、関達夫議員の質問は終わります。

(終了 午前11時19分)

議長（勝山 正）

ここで暫時休憩とします。

再開は、午前11時30分とします。

(休憩 午前11時19分)